

<日本の平和憲法改悪中断要求記者会見でのピョントンサのプレスリリース>

侵略の歴史を否定し軍国主義の道を開く平和憲法改悪を中断しろ！

日本の安倍政権は平和憲法の改悪を通して、侵略の歴史を否定し軍事大国化へと進む法的装置の準備を進めている。

安倍首相は、侵略否定発言、閣僚の靖国神社参拝の正当化発言などで軍国主義者の本性を現わしており、7月の参議院選挙公約に改憲発議要件を定めた憲法96条の改正（衆議院・参議院それぞれ2/3以上、それぞれ過半数で）を含ませた。これは、参議院選挙の勝利後、『天皇』を国家元首と明記し、集団的自衛権の確保と『国防軍』創設を含む憲法9条改悪をしようとする下心を現わしたものと見える。

日本が、戦争放棄、戦力保持と交戦権禁止などを規定した憲法9条を持つようになったのは、侵略戦争に対する反省を憲法の規定に明文化したものである。日本はすでに外部からの武力攻撃に対する防御権限（専守防衛）を持っているだけでなく、現在も米国の同盟国のうちで海上戦力2位、空軍戦力5位、地上戦力6位レベルの強大な戦力を備えている。にもかかわらず安倍首相が平和憲法を改悪しようとするのは、侵略の歴史を否定し、侵略の妨げになる交戦権放棄と軍隊保有禁止を投げ捨てることで再び軍国主義の道に進むという意思表示といわざるを得ない。

日本が平和憲法を改悪して再び軍国主義の道に進むことは、東アジアの安全保障構造を根本的に揺るがすことである。日本が米国などと手を結んで周辺国の軍事的圧迫と侵奪に乗り出した場合、東アジアの軍事的対立と衝突は深刻な様相へと突き進むことになるだろう。

日本帝国主義の侵略によって主権と生命・財産を奪われ恥辱の人生を生きてきた韓国と中国をはじめとする東アジアの国々は日本の軍国主義化を決して容認することはできない。特に、日帝の植民地支配によって最も甚大な被害をこうむり、今も歴史教科書歪曲・慰安婦・独島領有権問題などで苦しんでいるだけではなく、ふたたび日本軍国主義の一番の侵略対象となる可能性が高い我が民族は、安倍政権の平和憲法改悪を全身で糾弾する。我々は、安倍政権が北東アジアの安全保障の構造を根本的に揺るがす平和憲法改悪計画を中止することを、厳しく、かつ強く要求する。

一方、米国は安倍政権の平和憲法改悪の企みに対して、事実上の支持の立場を明らかに

している。平和憲法改悪を通じて日本が狙っているものが集団的自衛権の確保などによって侵略戦争ができるシステムを備えたいということであるがゆえに、これは日本の軍事大国化への支持を意味する。

これは、米国が自国の衰退する軍事覇権を日本の力を借りて維持するためのものだということができる。米国が東北アジアミサイル防衛（MD）と韓日軍事協定締結を強行しながら日米韓三角軍事同盟を追求するのも同じ脈絡だ。今回の韓米首脳会談を前後して、米国は韓国の MD 参加と日韓軍事協定締結を強制することが予想される。

アメリカが自分の軍事覇権を維持するために軍事大国化の道を突き進む日本を擁護することは、周辺国の激しい反発を招き、北東アジアの平和と安定を深刻に脅かす。私たちは、日帝の植民地支配の最大の被害者として、日本の軍事大国化を警戒する私たち同胞をはじめ東アジアの民衆の要求を無視する米国の行動を強く糾弾する。

ここに私たちは、今回の韓米首脳会談で両国大統領が東アジアに恒常的軍事的危機をもたらす日本の軍事大国化に反対の立場を明確に明らかにすることを求める。特に、朴槿恵大統領には、日本の朝鮮半島再侵略の道を与えることになる米国の日米韓 MD 参加要求と日韓軍事協定締結の要求を断固拒否することを強く求める。

2013 年 5 月 7 日

平和と統一を開く人々（ピョントンサ）

（常任代表：姜禎求、文奎鉉、ペ・ジョンニョル）